

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立島屋小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立島屋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○令和 6 年度末市学力経年調査の結果(3 年生以上国語・算数・英語)、各学年の平均正答率は、国語ではすべての学年で市平均を上回った。算数では 2 つの学年で市平均を上回り、他の 2 つの学年でも、市平均からの差が 1.5 ポイントとほぼ同等であった。英語では、すべての学年で市平均を上回った。これまでの取組を継続し、さらに学力の向上を図る。

○令和 6 年 4 月実施の全国学力学習状況調査の結果は、国語では、全国平均を 2.3 ポイント以上上回っている。算数でも全国平均より 3.6 ポイント以上上回っている。あわせて、無回答率も、全国平均よりも良く、問題に取り組む姿勢も良好である。基礎基本を重視したこれまでの取組を継続し、さらに学力の向上を図るための取組を進めていく。

○令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果、体力合計点では、男子、女子ともに全国・大阪市平均を下回った。種目別にみると、男子は握力が全国・大阪市平均を上回ったがその他は全て下回っている。女子は全ての項目で全国・大阪市平均が下回っている。特に男女共「反復横跳び」「ソフトボール投げ」「20m シャトルラン」で課題がある。

また、「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目では、肯定的な回答が、男子は全国平均を 1.6 ポイント上回り(全国 93.2%/自校 94.8%)、女子は全国平均を 1.5 ポイント下回った(全国 86.2%/自校 84.7%)。さらに、一週間の総運動時間が 60 分未満の児童の割合は、全国と比較して男子で 3.2 ポイント高く(全国 9.2%/自校 12.4%)、女子で 8.5 ポイント(全国 16%/自校 24.5%)高かった。昨年度から、本校の研究科目が体育科としている。研究の成果の中には、学習指導における教材と教具の工夫、他教科でも通ずる汎用性の感じられた指導などがあった。昨年度に引き続き、運動がわかる・できるようにするための授業づくりの工夫や、学年の系統性を考えた指導や年間指導計画の見直し・作成、学習環境の整備などを行っていく必要がある。

○令和 6 年度の不登校傾向の児童が、681 人中 17 人で 2.5%(昨年度 2.6%)と昨年度よりも低くなった。個々のケースに応じた登校支援の取組を継続するとともに、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーとの連携を図りながら、チームとして取り組みを検討していく。

○校区が広く、30 分以上かけて登校する児童や、バスで通学する児童もいる。近年の湾岸エリア開発のため、幹線道路に大型車両が多く通行する。そこで、登下校時の児童の安全に対する意識を向上させる必要がある。

○令和 6 年度の日本漢字能力検定では、各級の合格率が、学校全体の 85%であった。引き続き漢字力の向上を図る。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 7 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%にする。
- 毎年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度時点での大阪市小学校学力経年調査における標準化得点の比較で、全学年国語・算数・英語において大阪市平均を上回る。
- 令和 7 年度時点での全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体を動かすことが好きな児童の割合を前年度より上昇させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査で、「授業の中で、どの程度学習者用端末を使用していますか」の質問に「ほぼ毎日」と答える割合を 95%以上にする。
- 令和 7 年度末の教職員へのアンケートで「校内研修が充実していたと思うか」の質問に、肯定的に答える割合を、令和 4 年度より 3 ポイント以上増加させる。
- 令和 7 年度までに、学校閉庁日を夏季休業中 4 日以上、冬季休業中 3 日以上、春季休業中 1 日以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小・中学校)

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
 - ☆ 前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。
 - ☆ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)
 - ① 出席日数の増(学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む)
 - ② ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
 - ③ 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- 小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を47%以上(令和6年度38.8% 大阪市 40.5%)にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.1%以上(令和6年度83.2% 大阪市 78.7%)にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、83.5%以上(令和6年度73.7% 大阪市 76.3%)にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、70.5%以上(令和6年度70.1% 大阪市 68.9%)にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小・中学校)

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。
- ①学校アンケートにおいて、「一人一台端末や大型提示装置を活用して表現する学習は、自分たちのためになっている。(楽しいですか。)」(児童)に対して、肯定的に回答する割合を80%以上にする。
 - ②「大型提示装置を活用して表現する学習を学期に1回1以上行う。」(教職員)
- 1年間で、有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全安心な教育の推進について】

児童のいじめに対する意識の向上、不登校児童の在籍比率は減少したが、保護者・児童とつながり不登校児童の改善は果たせたので、今後継続する。

【未来を切り拓く学力・体力について】

話し合い活動への取り組みの充実、算数科における基礎基本の定着の徹底、運動好きの児童の割合を増やすための取り組みを継続する。

【学びを支える教育環境の充実について】

I C T機器のさらなる活用を目指す。社会見学を通して島屋地域を知る取り組みは深化継続する。

大阪市立島屋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 86%以上 (令和 6 年 82.8% 大阪市 81.5%) にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>✧ 前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の 1～3 に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。</p> <p>✧ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)</p> <p>① 出席日数の増 (学校内外で I C T 等を活用した学習活動をする事による出席認定含む)</p> <p>② I C T の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>③ 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>心の天気やいじめアンケートを活用し、児童の日々の心の状態を把握できるように努める。把握したこと (いじめ・不登校・暴力行為) を共通理解する場を設けることで、組織的に対応する。</p> <hr/> <p>指標 毎月児童の実態 (いじめ・不登校・暴力行為など) を生活指導部会で話し合い、組織的に対応するとともに必要に応じて人権教育や関係諸機関 (カウンセラーや SSW など含む) との連携を図る。また、「いじめについて考える日」を学期に 1 回設定し、取り組みを行う。年 3 回 (5 月・10 月・1 月) の児童いじめアンケートを実施することで、把握できた事案に速やかに対応する。また、把握できた内容から学年に応じて必要な指導を行う。</p>	
<p>取組内容②</p> <p>学校だより、学年だより、ほけんだより等で家庭や児童への基本的な生活習慣についての啓発を行う。また、あいさつについては、あいさつ週間を設定して意識付けをする。</p> <hr/> <p>指標 : 「早寝」「早起き」「朝ごはん」「規則的な排便」について、学校だより、学年だより、ほけんだよりを活用して年一回ずつ以上、それぞれの媒体で取り上げ家庭や児童へ啓発していく。</p> <p>「あいさつ」についてのアンケートをあいさつ週間の後に実施し、肯定的な回答を 85% 以上にする。</p>	
<p>取組内容③</p> <p>安全に関する指導や避難訓練を実施する。また、定期的に校内の安全点検を行う。外</p>	

<p>部講師を招いて、不審者の侵入や地震など様々な非常事態の想定をした研修会を行い、教職員の防犯・防災意識を高める。</p>	
<p>指標：児童の安全な教育環境の充実を図るため、月に 1 回安全点検を行い、修正箇所について計画的かつ確実に改善する。また、安全に関する指導や訓練を年間 4 回実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立島屋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 47%以上 (令和 6 年度 38.8% 大阪市 40.5%) にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86.1%以上 (令和 6 年度 83.2% 大阪市 78.7%) にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「外国語 (英語) の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、83.5%以上 (令和 6 年度 73.7% 大阪市 76.3%) にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、70.5%以上 (令和 6 年度 70.1% 大阪市 68.9%) にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成を年間 35 時間以上授業として取り組む。 ・「総合的読解力育成カリキュラム」についての振り返りの場を学期に 1 回以上設定する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>島屋ガーデンを活用した体験的な活動を取り入れた生活科、理科の学習を行う。</p>	
<p>指標</p> <p>島屋ガーデンを活用した学習を各学年 1 単元以上行い、学期毎の学校独自のアンケートで「生活科・理科の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>算数科の学習において、放課後等を活用した補充学習の機会を設定し、個別の支援を充実させる。</p>	

指標	「しまやタイム」を各学期 2 回以上実施し、算数科の学習で児童が個に応じた課題を自ら選んで学べる環境を整備する。	
取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】	継続的・系統的に英語のモジュール学習に取り組む。	
指標	週に 15 分×2 回の英語のモジュール学習に取り組み、学期毎の学校独自のアンケートで「外国語の学習やモジュールの活動は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。	
取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】	体育科を通して、子どもたちが運動の楽しさを感じ、自ら進んで運動したくなるように指導、支援すると共に運動環境を整備する。	
指標	・運動場の使い方や運動のきっかけとなる取り組みを学期に 1 回以上企画する。 ・1 週間の総運動時間が 60 分未満の児童を 12%以下にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
次年度への改善点		

大阪市立島屋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小・中学校) ○ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60%以上にする。 ○ ①学校アンケートにおいて、「一人一台端末や大型提示装置を活用して表現する学習は、自分たちのためになっている。(楽しいですか。)」(児童)に対して、肯定的に回答する割合を 80%以上にする。 ②「大型提示装置を活用して表現する学習を学期に 1 回以上行う。」(教職員) ○ 1 年間で、有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ○GIGA スクール構想に基づく各種 ICT 環境整備に対応し、児童の教育活動に有益となるよう ICT 環境の構築に努める。 ○教職員、児童ともに ICT 機器の使用に慣れ親しみ使いこなせるように努め、児童らが意欲的、かつ楽しんで学習活動に利用できるよう指導する。			
指標 一人一台端末を用いた活動(カメラ機能、調べ学習、プレゼンテーションなど)を月に 1 回以上 (1・2 年生に関しては、学期に 1 回) 取り組む。			
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教育環境において、学校教育活動を支える教職員自身が最大の教育環境と捉え、その教職員が体力面・精神面ともに充実した教育活動を行えるよう努める。			
指標 学校閉庁日を夏季休業中 4 日以上、冬季休業中 3 日以上設定する。 ゆとりの日(放課後に予定のない日)を毎週 1 日設定する。			
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の充実】 地域活動協議会及び校区内関係諸団体との連携を強化し、登下校時の子どもの安全確保体制を確立する。また、地域諸団体と連携して地域に開かれた学校の運営に取り組む。			
指標 学校行事及び登下校時刻予定表により、見守り隊との連携を確実に行う。島屋安全の日には、教員による交通安全指導に取り組み、地域の方々との登下校の見守り・指導に取り組んでいく。 児童と地域諸団体との交流行事を行い、児童に地域の一員としての自覚を高める。			
1 学期	2 学期	3 学期	
住友電工の工場見学(3 年)	消防署見学(3 年) はがきの書き方講座(2 年) 安治川口駅見学(2 年) 日本製鉄工場見学(5 年)	見守り隊へのありがとう集会(全校)	
※地域諸団体とは・・・企業以外の地域の人(地域活動協議会、島屋保育所など)			

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点